

作成日 2021年11月29日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

| | |
|-----------------------|--|
| 化学品の名称 | ハードロックⅡ 剥落マモリータ |
| 製品コード | — |
| 供給者の会社名称、 住所及び電話番号 | デンカ株式会社 〒103-8338 東京都中央区日本橋室町2丁目1番1号 日本橋三井タワー エラストマー・インフラソリューション部門 特殊混和材部 03-5290-5363 |
| FAX 番号 | 03-5290-5085 |
| メールアドレス | — |
| 緊急連絡電話番号 | 渋川工場 電子材料部 ハードロック課 0279-25-2110 |
| 推奨用途 | 産業用接着剤 |
| 使用上の制限 | 推奨用途以外には使用しない。 食品接触材料の接着や医療機器等の接着に使用しない。 |
| 整理番号 | HLⅡ-213 |

2. 危険有害性の要約

| | | |
|-------------|------------------|----------|
| 化学品の GHS 分類 | | |
| 物理化学的危険性 | エアゾール | : 区分 1 |
| | 引火性液体 | : 区分 1 |
| 健康有害性 | 急性毒性（吸入：ガス） | : 区分 4 |
| | 皮膚腐食性／刺激性 | : 区分 2 |
| | 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 | : 区分 2 |
| | 皮膚感作性 | : 区分 1 |
| | 生殖毒性 | : 区分 1 B |
| 環境有害性 | 水性環境有害性 短期（急性） | : 区分 3 |
| | 水性環境有害性 長期（慢性） | : 区分 3 |

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

| | |
|----------------|---|
| 危険有害性情報 | 極めて引火性の高いエアゾール 高圧容器：熱すると破裂のおそれ 皮膚刺激 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ 強い眼刺激 吸入すると有害（気体、粉じん及びミスト） 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ 水生生物に有害 長期継続的影響によって水生生物に有害 |
| 注意書き [安全対策] | 使用前に取扱説明書入手すること。 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。 容器を密閉しておくこと。 容器を接地しアースをとること。 防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。 火花を発生させない工具を使用すること。 静電気放電に対する措置を講ずること。 粉じん／ガス／ミストの吸入を避けること。 取扱い後は手をよく洗うこと。 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 環境への放出を避けること。 保護手袋／保護衣／保護眼鏡を着用すること。 |
| [応急措置] | 皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。 皮膚を水（又はシャワー）で洗うこと。 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。 気分が悪いときは医師に連絡すること。 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。 皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。 眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。 漏えい（洩）ガス火災の場合：漏えいが安全に停止されない限り消火しないこと。 |
| [保管] | 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。 施錠して保管すること。 |
| [廃棄] | 日光から遮断し、40℃以上の温度に暴露しなすこと。 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分者と契約し、 廃棄物処理法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）及び関係法規・法令を 遵守し、適正に処理すること。 |

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物
化学名又は一般名 アクリル系樹脂
成分及び濃度又は濃度範囲

| 化学名又は一般名 | CAS No. | 濃度又は濃度範囲 (wt%) | 官報公示整理番号 (化審法) |
|---------------------------|-----------|-------------------|-------------------|
| ジメチルエーテル | 115-10-6 | 30 - 50 | (2)-360 |
| (メタ)アクリル酸エステル類 | 非開示 | 30 - 70 | 非開示 |
| メタクリル酸 2-ヒドロキシエチル | 868-77-9 | 5 - 20 | (2)-1044 |
| クメン | 98-82-8 | < 1 | (3)-22 |
| コバルト及びその化合物 | 136-52-7 | < 1 | (2)-615 |
| 灯油 | 8008-20-6 | < 1 | — |
| 1-メチル-1-フェニルエチル=ヒドロペルオキシド | 80-15-9 | 0.70 | (3)-1014 |
| ヒドロキノン | 123-31-9 | 0.003 (意図的含有) | (3)-543 |

※非開示成分は化審法登録済み

GHS 分類に寄与する成分 なし

4. 応急措置

吸入した場合

蒸気を吸入して不快、頭痛等がある場合には、直ちに新鮮な空気の場所に移し、毛布等で保温して安静にさせ、速やかに医師の手当を受ける。

皮膚に付着した場合

汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。
皮膚にふれた部分を速やかに水または石鹼にて洗浄し、付着した製品を完全に洗い流す。
洗浄を始めるのが遅れたり、不十分だと皮膚の障害を生ずる恐れがある。
外観に変化がみられたり、痛みが続く場合は速やかに医師の診断/手当を受ける。

眼に入った場合

眼に入った場合、直ちに洗浄を始め、清浄な水で 15 分間以上洗浄後、眼科医の診断/手当を受けること。
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。
洗眼の際、まぶたを指でよく開き、すみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。目をこすってはならない。洗浄を始めるのが遅れたり、不十分であったりすると障害を生ずる恐れがある。できるだけ速やかに眼科医の診断/手当を受ける。

飲み込んだ場合 水でよく口の中を洗浄する。気分が悪いときは、速やかに医師の診断/手当を受ける。
被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 噴霧水、粉末消火剤、ハロゲン化物消火剤、二酸化炭素消火剤、泡消火剤、乾燥砂。

使ってはならない消火剤 水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。

火災時の特有の危険性 蒸気が滞留すると爆発のおそれがある。
燃焼により有害なガス(一酸化炭素、窒素酸化物等)を発生することがある。

特有の消火方法 全ての着火源、可燃性の物質を周囲から取り除く。
火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。
消火作業は風上から行う。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
作業の際には必ず保護眼鏡や保護手袋等の保護具を着用し、風上より作業する。

環境に対する注意事項 環境への影響を起こさせないよう、河川等へ排出させない。
回収物は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分者と契約し、廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)及び関係法規・法令を遵守し、適正に処理する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材 漏洩時はおがくず、ウェス、砂等に吸収させてから回収して十分な水に浸漬して廃棄する。衝撃や静電気による火花が発生しない材質の用具を用いて回収する。

二次災害の防止策 付近の着火源となるものを速やかに取り除き、消火用機材を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

目、皮膚、及び衣類に触れないように、8項に記載した保護具を着用する。

漏れ、あふれ、及び飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させない。

火気厳禁。高温物、スパーク、火炎を避ける。

本製品の硬化物をディスクサンダー等で研磨した場合、研磨した粉末を集めたまま（掃除機のフィルター、ゴミ袋等）処置すると自然発火するおそれがある。

積もった研磨粉は、掃除機を使用せずにほうきで集め、廃棄するまで十分な水に浸しておく。都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分者と契約し、廃棄物処理法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）及び関係法規・法令を遵守し、適正に処理する。

取扱者のばく露防止

推奨される保護具を着用する。

局所排気・全体換気

全体換気装置、必要に応じて局所排気装置を設置する。

安全取扱注意事項

換気のよい場所で取扱い、蒸気を吸入しないように注意する。

休憩場所等に手洗い、洗眼の設備を設ける。取扱い後に手洗い、洗顔を行行する。

接触回避

目、皮膚及び衣服に付着させないようにする（第8項の保護具を参照）。

混触危険物質（第10項参照）と同一場所に置かない。

保管

安全な保管条件

変質（変形）を防止するため、直射日光、水漏れ、湿気、熱を避けて冷暗所（好ましくは20℃以下）で容器を密閉して保管する。

火災を防止するため、火気、熱源、発火源から離れた場所で保管する。

混触禁止物質

金属類、アミン類等の還元剤、強酸、強アルカリ、強酸化剤。

適切な保管条件及び

密封できない容器を保管に使用すると、揮発する可能性がある。

避けるべき保管条件

金属製の容器に保管すると、ゲル状の不溶物を生じる可能性がある。

安全な容器包装材料

消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

ステンレス等の密閉容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度 ACGIH 許容濃度/許容濃度勧告値

| | TLV-TWA | STEL |
|--------|----------------------|------|
| クメン | 50ppm | — |
| ヒドロキノン | 1mg/m ³ | — |
| 灯油 | 200mg/m ³ | — |

設備対策 全体換気設備および/または局所排気等の設備を設置して作業者がばく露から避けられるようにする。

取扱場所の近くに洗身シャワー、手洗い、洗顔設備を設けることが望ましい。

保護具 換気の不十分な屋内で使用する場合は有機ガス用防毒マスク等を着用する。

耐溶剤性保護手袋。

接着剤の成分が浸透しにくいいため、かぶれにくくなる。但し、手袋によっては、合わせ目が破れ易いものがあるので、事前に破れのないことを確認した上で使用する。

側板付き普通眼鏡型又はゴーグル型保護眼鏡。

長袖の作業衣。

特別な注意事項 作業中は飲食、喫煙をしない。

作業終了時には、石鹼で手を洗う。

9. 物理的及び化学的性質

| | |
|-----------------------|--|
| 物理状態 | 粘稠液 |
| 色 | 噴射剤(DME) 液体 紫色 |
| 臭い | 噴射剤(DME) 無色透明 微かに特有芳香がある |
| 融点/凝固点 | データなし 噴射剤(DME) -141.5°C |
| 沸点又は初留点及び沸点範囲 | 125 °C@133Pa ((メタ)アクリル酸エステル類) 噴射剤(DME) -24.82°C |
| 可燃性 | データなし |
| 爆発下限界及び爆発上限界 /可燃限界 | データなし 噴射剤(DME) 下限3.4 vol%、上限27.0 vol% |
| 引火点 | データなし 噴射剤(DME) -41.1°C |
| 自然発火点 | 93°C以上 (メタクリル酸 2-ヒドロキシエチル、密閉式) 噴射剤(DME) 350°C |

| | |
|---------------------------|---------------------------------------|
| 分解温度 | データなし |
| pH | データなし |
| 動粘性率 | データなし |
| 溶解度 | データなし |
| | 噴射剤(DME) 7.0 g / 水 100g(18°C) |
| n-オクタノール ／水分配係数(log 値) | データなし |
| | 噴射剤(DME) 0.2 |
| 蒸気圧 | 0.9 ~ 1.1g/cm ³ (密度、25 °C) |
| | 噴射剤(DME) 3,800mmHg (20.8°C) |
| 密度及び／又は相対密度 | データなし |
| 相対ガス密度 | データなし |
| 粒子特性 | データなし |
| その他のデータ | データなし |

10. 安定性及び反応性

| | |
|----------------------|---|
| 反応性 | 高温、光の照射、混触危険物質との混合・接触により反応(重合反応、分解反応)する。 |
| 化学的安定性 | 第7項記載の適切な保管条件においては安定である。 |
| 危険有害反応可能性 | 高温、光の照射、混触危険物質との混合・接触により、発熱を伴う急激な化学反応(重合反応、分解反応)が起こり、有害性ガスの発生や火災発生の危険がある。 |
| 避けるべき条件 | 加熱、火気、直射日光、金属類・アミン類等の還元剤との混合・接触。 |
| 混触危険物質 危険有害な分解生成物 | 金属類、アミン類等の還元剤、強酸、強アルカリ、強酸化剤。 該当しない |

11. 有害性情報

| | | |
|-----------|-----------------|--|
| 急性毒性 | : 経口: | 1-メチル-1-フェニルエチル=ヒドロペルオキシド ヒドロキノ |
| | 経皮: | 1-メチル-1-フェニルエチル=ヒドロペルオキシド |
| | 吸入(ガス): | (メタ)アクリル酸エステル類の一部 1-メチル-1-フェニルエチル=ヒドロペルオキシド |
| | 吸入(蒸気): | (メタ)アクリル酸エステル類の一部 1-メチル-1-フェニルエチル=ヒドロペルオキシド |
| | 吸入(粉塵、ミス ト): | (メタ)アクリル酸エステル類の一部 1-メチル-1-フェニルエチル=ヒドロペルオキシド |
| 皮膚腐食性/刺激性 | : 皮膚腐食性: | 1-メチル-1-フェニルエチル=ヒドロペルオキシド |
| | 膚刺激性: | (メタ)アクリル酸エステル類の一部 メタクリル酸 2-ヒドロキシエチル |

| | | |
|---------------------|-------------------------|---|
| 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 | ： 眼に対する重篤な損傷性： 眼刺激性： | ヒドロキノン (メタ)アクリル酸エステル類の一部 メタクリル酸 2-ヒドロキシエチル コバルト及びその化合物 |
| 呼吸器感作性又は皮膚感作性 | ： 呼吸器感作性： 皮膚感作性： | データ不足のため分類できない メタクリル酸 2-ヒドロキシエチル ヒドロキノン コバルト及びその化合物 |
| 生殖細胞変異原性 | ： | ヒドロキノン |
| 発がん性 | ： | ヒドロキノン |
| 生殖毒性 | ： | コバルト及びその化合物 |
| 特定標的臓器毒性 (単回ばく露) | ： 気道刺激性： 麻酔作用： | (メタ)アクリル酸エステル類の一部 クメン ジメチルエーテル |
| 特定標的臓器毒性 (反復ばく露) | ： | 1-メチル-1-フェニルエチル=ヒドロペルオキシド |
| 誤えん有害性 | ： | クメン 灯油 |

12. 環境影響情報

| | |
|-----------|------------------------------|
| 生態毒性 | データ不足のため分類できない |
| 残留性・分解性 | データ不足のため分類できない |
| 生物蓄積性 | データ不足のため分類できない |
| 土壤中の移動性 | データ不足のため分類できない |
| オゾン層への有害性 | 該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。 |

13. 廃棄上の注意

| | |
|--|---|
| 化学品（残余廃棄物）、当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報 | |
| 残余廃棄物 | 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分者と契約し、廃棄物処理法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）及び関係法規・法令を遵守し、適正に処理する。 |
| 汚染容器及び包装 | 空容器は残油または気化した蒸気の引火、爆発の危険があるので、密栓し、指定場所に保管する。残油の回収、蒸気開放等未処理の空容器の切断、溶接等の加工はしない。 廃棄する場合は内容物を完全に除去した後処分する。 |

14. 輸送上の注意

| | |
|---|---|
| 国連番号 | 1950 |
| 品名（国連輸送名） | エアゾール |
| 国連分類 | クラス 2.1（引火性高圧ガス） |
| 容器等級 | 非該当 |
| 海洋汚染物質 | 非該当 |
| MARPOL73/78 付属書Ⅱ及び IBCコードによるばら積み 輸送される液体物質 輸送又は輸送手段に関する特定の安全対策 | 非該当 |
| | 運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷 がないように積み込み荷崩れの防止を確実に行う。 |
| 国内規制がある場合の規制 情報 | 消防法、道路法、船舶安全法、港則法、航空法に従う |

15. 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

消防法 : 危険物第4類第3石油類（非水溶性）

労働安全衛生法 : 変異原性が認められた既存化学物質

クメンヒドロペルオキシド

（1-メチル-1-フェニルエチル=ヒドロペルオキシド）

労働安全衛生法第57条 : 表示対象物 コバルト及びその化合物

労働安全衛生法第57条の2 : 通知対象物 クメン、コバルト及びその化合物、灯油、
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）：該当しない。

化学物質排出把握管理促進法 : 第一種指定化学物質

1-メチル-1-フェニルエチル=ヒドロペルオキシド、

クメン、コバルト及びその化合物

第二種指定化学物質

該当しない

毒物及び劇物取締法 : 該当しない

船舶安全法 : エアゾール（引火性高圧ガス。容積が1L以下で再充填ができないもの。）

航空法 : エアゾール（引火性のもの。毒物、腐食性物質又は毒ガスを含まないの。）

港則法 : その他の危険物・引火性液体類

16. その他の情報

免責事項：

- 1) 本情報は、作成者の知識の及ぶ限りにおいて正確ですが、その内容の絶対的な情報の正確性および情報収集の網羅性においては完全ではありません。またその内容は、代表的な実験値や調査に基づくものであり、いかなる保証をなすものではありません。
- 2) 本記載内容は、材料、製品に関するものであり、この材料が他の素材と組み合わせられた場合、処理された場合については想定しておりません。
- 3) 特に医薬用途では使用しないで下さい。
- 4) この材料を適切に使用する最終的決定の責任、およびこの情報をユーザー独自の取扱いに適合させ完全で満足できるものとする責任はユーザーにあります。
- 5) 全ての材料には未知の危険性があり、取扱いに十分に注意する必要があります。この SDS には特定の危険性について記載してありますが、これ以外の危険性が存在しないとはいえません。
- 6) ご使用に際しては、必ず貴社にて事前テストを行うなどして、使用目的への適合性や安全性等を確認の上、安全な使用条件を設定してください。
- 7) 本 SDS の内容は新しい知見により断りなく変更する場合がありますので、ご了承ください。